

596

山口



昭和二十一年十月
三十一日
三十一日
三十一日

不
着
中
不
着
中
不
着
中

（故血審查會主任簽定見解）

在 領事館 第一六號

申請者 白石 顯 昭

甲請額 壹千五百圓

備考

副甲額 大伴 承 昭

査定額

令 百 〇 〇 〇 〇

外 務 省

（已號用紙）

5-1158

0158

平安北 道龍川郡龍川 西龍岩洞古墳地

白石顯照

勅令第二百四十七號第二條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請書各項ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム

大田覺服
申請記述ハ
ノ實情ニ照ラシ稔當ナリトハ思考セララルルヤ

申請書記載ノ損害ノ総價額ヲ申請者ノ経歴資産及信用
申請書記載ノ損害総額ハ申請者ノ経歴信用ノ実情

ヒヨリ稔當ト認ナム

(大田覺服証明書参照)

三該申請者ト被害者トノ關係ハ申請書ニ記述セラレ
シル處ト相違ナキヤ

ナシ

四其法律第三十九條第五條規定ノ審査會ヲ査定ヲ爲
ス爲参考トナル事項

ナシ

救恤申請書第六號

救恤金下賜度申請書

本籍愛媛縣越智郡富田村奈松木三番戸

現住地朝鮮平安北道龍川郡龍川面龍岩洞春五番地

職業僧侶

白石 顯照

明治三十四年十二月三日生

顯照妻 無職

白石 シカ

明治三十四年十月十五日生

一、引揚場所 露領沿海洲公園ノ市九サウスカヤ街六十五番地

一、引揚年月日 大正九年十月二十五日

一、引揚前後事情 過激派、跳梁橫暴其極ニ達シ我軍

之ヲ默視スルニ忍ビテ兵火相見エントスルノ情

況ニ在リ在留同胞ト共ニ前後三回引揚ヲ爲ス

第一回 大正八年八月十六日尾港區港ヲ經テ浦塩ニ引揚

第二回 大正九年三月二十日外務省ノ命令ニ浦塩ニ引揚

第三回 大正九年十月二十五日沿海洲撤兵ニ浦塩ニ引揚

一、損害ノ種類程度價格及事由

一、私有佛具器具書籍損害金壹千円

二、三度引揚セシ旅中ノ失費本山補助以外ニ事有ル

合計金壹千五百円

一、引揚前在留期間 自大正六年十月至大正九年十月二十二月



顯照等儀

大正六年十二月ヨリ本派本願寺駐在布教使トシ
テ露領ハロフス市本派本願寺布教所ニ在留
中大正九年三月外務省在留邦人引揚命令ニ
ヨリ引揚致シ前記ノ通り損害相受ケ候事相
違無之候條大正十一年四月法律第三十九號ニ
ヨリ救恤金下賜度此段申請候也

大正十一年六月十六日

白石顯照

白石シカ

外務大臣内田康哉殿

追テ布教所ノ招き書ハ在山地表者ヨリ故
壇中請可致ル
以上



前書之通り相違無之依ハ証明矣也

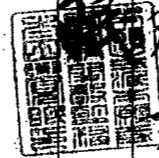
大正十一年六月三十日

露路領浦潮斯德市本願寺出張所内駐在

本願寺派本願寺西伯利開教監督本出代表者

太田 覺

左沖



西伯利開教監督事務所

5-1 158



597

山口

地方



引揚 不吉 不吉

不吉 不吉 不吉

朝野總督府
 在 領事館 第一七號
 申請額 三才者月
 備考
 前申額 大何承記
 査定額 金三百拾日
 申請者 本林萬三
 沼津軍用達

(改進黨會主任委員見書)
 在留 九月

外務省

(已號用紙)

5-1 158



成鏡北 道清津郡北星町西拾六 番地

森 萬 云

勅令第二百四十七號第三條各項事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請各項ノ記述ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム

申請書
ノ
損
害
ノ
額
ハ
本
人
ノ
経
歴
資
産
ニ
照
シ
稔
當
ナ
リ
ト
思
考
セ
ラ
ル
ル
ヤ

申請書記載ノ損害ノ総價額カ申請者ノ経歴資産及信用
ノ実情ニ照ラシ稔當ナリト思考セララルルヤ
損害総價額ハ本人ノ経歴資産ニ照シ稔當ナリト思考ス

該申請者ト被害者トノ關係ハ申請書ニ記述セラレ
シル處ト相違ナキヤ

ナシ

其法律第三十九條第五條規定ノ審査會ヲ査定ラ爲
ス爲参考トナル事項

ナシ



校印申請書 一七 號 申請書

西比利亞事變故恒令下附

李穆地 熊年縣天年部湯島村四

冬於七考他

現任河 湖鏡水送清津赤北星所

於七考他演業

一、被害者 申請人 森 芳三

五十四三年

一、遺難又ハ引揚ノ場所

遺難ノ場所ハ南湖斯德ヲ約三百里ノハ

口カヲ約四里ノ地点タル日年派遺隊所在地

引揚ノ場所ハ「ハボロカ」ヲ經テ南湖斯德

二、遺難又ハ引揚ノ年月日

大正九年三月二十五日派遺隊ノ引揚命令

ニ因リ本月二十七日派遺隊保護ノ下ニ引揚

ケ「ハボロカ」ニ至リ本月二十九日令所出發

月一日南湖斯德着

三、遺難又ハ引揚前後ノ事情

前項記載ノ如ク派遺隊ノ命令ニ依リ令隊

保護ノ下ニ移定リ引揚ヲ実行シ老多シ生

11.6.23 1062

11.6.28 1062



ノ時子ノ在任也

云、其他参考事項

吉時ハ被命者ハ妻ヲ日ト為名ニシテ福キ夫
ノ名ニシテ有之被命者實此ハ多クハ臣等
ノ令新ニ被命者判明ノコトト思テ了也

右ノ通り、今ノ故恒令津下附相度
此段及申請也

大正拾壹年二月八日

如

申請人 森 篤三



外務大臣 齋内由康 殿

外務省文書部

602

標過
奪



九年
九月
...

在
不
...

朝野總督府
 領事館 第二二號
 申請額 貳萬貳千八百九十圓
 備考 大伴承記
 査定額 全二千五百圓

(敬啟者 查會生 詳見 見書)
 全額 細工 時計 丙 食料 品 用 煙
 申請者 崎 嘉 能 一
 備考 崎 嘉 能 一
 備考 崎 嘉 能 一

外
務
省

五七
(已
號
用
紙)

5-1158

第一一號

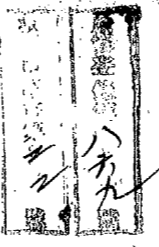
取調書

咸鏡北道會寧郡會寧 百三十一番地

藤崎喜熊

一、勅令第二百四十七號第六條各項事項に關スル申請記述に根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述、各項に相當根據ヲ有スル者ト認ム



二、申請書記載ノ損害ノ総價額ヲ申請者ノ經歷資産及信用
ノ實情ニ照ラシテ穩當ヤリト思考セラルルヤ

本人ノ經歷資産及信用ノ實情ニ照シテ穩當ナルモノト

思考セラレ

三、該申請者ト被害者トノ關係ハ申請書ニ記述セラレ
タル處ト相違ナキヤ

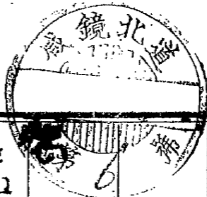
ナシ

四、其法律第三十九條第五條規定ノ審査會ヲ查定ラ爲
ス爲参考トナル事項

ナシ

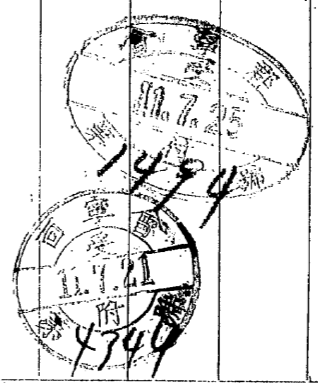


57



救恤申請書 第二二號

救恤金交付申請書



Vertical grid lines for text entry, with a small arrow pointing to the right in the center.

大蔵省

5-1158



救恤金交付申請書

本籍鹿兒島縣鹿兒島市下荒町貳百九拾七番地、イ号
現住所咸鏡北道會寧郡會寧面三洞參拾貳番地


藤崎 喜熊

明治九年拾月拾壹日生

右者大正九年一月ヨリ同四月ニ至ル間露領後貝
加爾州「スレテンスク」ニ在住當時露國過激派
ノ襲撃手過難ニ依リ大正九年四月拾日該地ヲ引
揚ケ家財及商品等全部過激派ノ毒手ニテ
掠奪又ハ破壊セラレタル處大正拾陸年法律
第三九号ニ依リ救恤金交付ニ關シ勅令第貳百四拾
七号第二條ニヨリ救恤金交付相成度別紙過
難當時ノ概況及損害程度書相添ヘテ
段々申請候也

大正拾陸年七月 日

右

申請人 藤崎 喜熊 

大日本帝國

外務大臣

殿

(大原鈴木製)

遭難ノ事情及損害程度

一 遭難者ノ氏名 藤崎喜熊

一 遭難者ノ本籍 鹿児島縣鹿児島市荒田町貳百七拾七番地イ号

一 遭難者ノ年齢 明治九年拾月貳拾番生

一 遭難者ノ職業 貴金屬時計商並 貴金屬製作

兼業セシヨウ軍衛成病院納品用運其他食糧品

一 遭難ノ場所 露領後貝加爾州「スレテンスク」

一 遭難ノ日時 大正九年五月貳拾七日 (第四)

大正九年五月貳拾四日 (第三)

大正九年四月參四日 (第一)

一 遭難地ノ揚年月日 大正九年四月拾日

一 遭難當時ノ事情

第一回遭難ハ前日秋憲兵隊ヨリ過激派襲撃ノ報知

ニ依リ直ニ在留民一同秋守備隊ニ避難中秋軍ノ應

援隊到着ニ過激派ノ撃手退ス

第二回遭難ハ大正九年五月參日三時突然過激派ノ末

襲撃ノ度ニ避難スル連ナリ在留民一同ハ各自自宅ヲ

空家ノ如ク装ヒ辛シク避難中秋軍ノ應援隊到着

ニ同拾四日午後拾時頃秋軍ノ爲メ撃手退セラル

第三回遭難ハ四月參日午後拾時頃秋憲兵隊

(天原鈴木殿)



ヨリ過激派襲撃ノ通報ニ接シ直ニ在留民一同銃軍
守備隊援護ヲ受テ守備隊附近ノ一家屋ニ避難
セリ今回ハ前ニ同ニ比シ優勢ナル過激派ノ大襲撃ヲ
ニテ在留民一同モ全滅ノ覚悟ナリシモ敵ハ市中ニ
侵入シ家財ヲ掠奪又ハ破壊等ヲ專ニスル材
應援隊到着直ニ之ヲ撃退セリ彼等ノ破壊
又掠奪ニヨリ蒙リタル損害ハ尙莫大ニシテ
家財一物ヲ止メス無慘ノ行爲ヲ爲シテモ
尚足ラザルナリ

前記三回ハ過激派ノ最モ顯著ナルモノニシテ其ノ間
救回避難セシ事ナリ危険刻々ニ迫リ到底在
留スル事能ハス止ム得ス一同引揚ケル事ニ
決定セルモ汽車不通ノ爲メ軍用列車ノ配給
方ノ守備隊經由ナク師團司令部ニ願出
テ貨車二輛ノ配給ヲ受ケ大正九年四月十日
在留民ハ民會長以下全部引揚ケ國境
滿州軍到着同時停車場司令部ヨリハルビン
新ニ貨車二輛配給サレハルビンヨリ長春ニ
貨車到着セリ
當時不肖真熊ハ民會長トシテ其ノ義

(大阪鈴木製)



十

<p>務ヲ果シタルニ依リ長春ニ到着ノ上在留一同ニ 対シ民會ノ解散ヲ告示セリ 申請人北勝崎喜能ハ一旦郷里ニ歸リタル後現 住所威鏡北道會寧郡會寧面ニ洞岩丸式番地 三轉位セリ 一遭難者カ遭難地ニ在住シタル期間 明治四十一年十二月ヨリ大正九年四月十日ニ至ル 滿拾壹年四月間ステレテスキレ在留ス 一損害ノ種類程度價格及事由</p>				
損害種類	員數	單價	合計金額	事由
掛時計	參拾五個	一五五〇〇	八九二五〇	邊激派襲撃ニ屬シ 破壊ナリ
金剛懷中時計	拾五個	五〇〇〇〇	七五〇〇〇	邊激派襲撃ニ屬シ 破壊ナリ
金剛腕巻時計	拾五個	四三五〇	六五二五〇	同上
金剛懷中時計	四拾五個	二一〇〇	九四五〇〇	同上
貴金屬(寶石)入 指輪	七拾五個	一三五〇	九三七五〇	同上
寶石 イヤセンドル	八拾五個	三二〇	二八〇〇〇	同上
金 ルビー	參拾五個	二五〇	七五〇〇〇	同上
金 イヤセンドル	四拾五個	二〇〇	八〇〇〇〇	同上
金 無地丸 指輪	貳拾個	五〇〇	一〇〇〇〇	同上
金 耳下	四拾組	四〇〇	一六〇〇〇	同上

(大阪録水製)



1147310
 10 447 1/2 340 88860

10 88860

十四金 時計鏡	八何	五〇〇〇	四〇〇〇	全上
十四金 メダル	貳拾五何	七〇〇〇	一七五〇〇	全上
銀製巻煙草	拾八何	一七〇〇〇	三〇六〇〇	全上
銀製時計鏡	四拾三何	三〇〇〇	一三六〇〇	全上
三ツケル時計鏡	五拾何	八五〇	四三〇〇	全上
鉄側履中時計	五拾何	七〇〇	三九〇〇	全上
三ツケ履中 時計	参拾何	五〇〇	一五〇〇	全上
銀側履巻 時計	貳拾五何	一九〇〇	三九〇〇	全上
十四金 地金	百八拾五	三八五〇	五一三〇	全上
砂金	参百六拾五	四八五〇	一五五三〇	全上
以上ハ、損時計ノ除キ、外、空倉ニ格納モ置キムモノヲ 抹奪セラルケリ				
製作工具	壹式		八〇〇〇	破壊
洋服	六着	五〇〇〇	三〇〇〇	抹奪
家具	壹式		六〇〇〇	破壊
茶	八百斤	七〇〇	五六〇〇	抹奪
麦粉	八百一ト	八〇〇	六四〇〇	全
米	千〇三アト	七七〇〇	七三三〇	枚大焼失
精肉	参百アト	八五〇	二五五〇	
家様・損害				

(大蔵省複製)

5-1158

0185

123 不 5

<p>妻ノ被服 (和服)</p>	<p>四〇〇〇〇〇</p>	<p>〇</p>
<p>所持懐中 金時計</p>	<p>シヤトルビー 売価</p>	<p>二五〇、〇〇〇</p>
<p>家族六名 避難費用</p>	<p>—</p>	<p>六名、四、〇〇〇、〇〇〇 源八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇</p>
<p>右損害價格合計金 貳拾肆萬八千七百 圓也</p>		
<p>一、其他參考トモ可キ事項</p>		
<p>別紙往復書類及寫書類ヲ參考トシテ添付ス</p>		
<p>其他參考トモ可キ書類ハ避難ノ際焼失又ハ掠奪セラルル爲メ手許ハ無シ</p>		
<p>尚勅令公布セラルルコト遅ク知ラレル爲メ申請期日接直ニ領事ノ證明ヲ求ムルノ違テキ爲メ</p>		
<p>所持タル當時ノ文書ヲ添付ス也</p>		
<p>右ニ通り相違無ク候也</p>		
<p>大正十一年七月二十日</p>		
<p>右置人 北條 崎 喜 能</p>		

(大阪鈴木製)

5-1 158



號外

大正九年一月二十五日

在子夕

副領事 古澤 幸吉

スレーレンスラ 領事

殿



事務引継通知ノ件

本官本日後任緒方副領事ニ當館事務引継
ツ了シ候條此段及御通知候敬具

5-1158



告示第二四號

大正八年十二月六日

在夕

古澤副領事

後貝加爾州保安全權委員長セメノフ少將ハ十二月六日左記要領ノ命令ヲ發表セリ

一 投機業防止ノ為メ後貝加爾州境內ヨリ總テノ織物類及小間物類ノ輸出ヲ禁ズ犯スモノハ行政処分ヲ以テ一萬留ノ罰金又ハ三ヶ月間ノ禁錮ニ処ス
ニ 市ノ附近ニ於テ農村ヨリ市場ニ搬出シ来ル農産物ノ轉買及買占ヲナスコトヲ禁ズ犯スモノハ野戰軍法會議ニ附シ処罰ス

在齋々哈爾日本領事館

三 小包郵便ニテ輸出禁制品ヲ送附スルモノアルヲ以テ之レカ取締ノ為メ右發送ニ際シ軍務官憲及民警立會ノ上検査ヲ行フベシ
右心得ノ為メ告示ス

告示第二三號

大正八年十月九日

在夕夕

副領事古澤幸吉



今般露國憲^{（指）}ニ於テ左記ノ通り保安命令施行ノ
トト相成タルニ付一般心得ノ為ノ告示ス

託

後貝加爾州保安部命令

（一九一九年十一月二日知多市ニ於テ公布）

後貝加爾州住民ノ一般心得ノ為左ノ通り告示ス

本州ニ於ケル國家的秩序及社會的康安維持ノ目
的ヲ以テ予ハ一九一八年七月十五日付臨時保安條例

在齊々哈爾日本領事館

第九條（一）（二）二項ニ基キ左記各項ヲ規定ス

- 一、知多市ニ未着ノ者及新ニ未着スル者ハ總テ到着後
一晝三夜ノ期限内ニ民警署ニ於テ旅券ノ裏書ヲ示シ
- 二、知多市ニ在住スルコトヲ許可セラルルヤモハ家族的事情
アルモノ官公吏務ノ關係スルモノ及一定職業ヲ有スルモノ
三、民警署ニ於テ最近一年間ニ知多市ニ未着セルモノニテ一定
職業ヲ有セザルモノ名簿ヲ呈怠視察シ之ヲ提出スルニ
- 四、本令第一項ニ違反スルモノハ行政処分トシテ禁錮三箇月若クハ
四罰金三千圓ニ処ス新ニ知多市ニ未着シ一定職業ヲ有セザルモノ
戒嚴令施行期間即時後貝加爾州ヲ退去ヲ命ズ

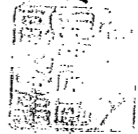
少將 七メノフ

告示第二〇號

大正八年九月廿六日

在ナク

副領事古澤幸吉



オハスク政府ハ後貝加爾鉄道ホルシヤ、滿洲里
兩駅間沿線五十露里地帯ヲパスシ流行地トシ後
貝加爾州ヲパスシ危險地ト認ムル者九月十八日內
務大臣ヨリ後貝加爾州長官ニ通電アリタリ
右告示ス



成通第一〇號

大正八年十月廿日

在在

副領事

吉澤孝一

ソトレケニシク

日本會會長殿



旅券ニ写眞添附ノ件

貴地在留民旅券所持者ニシテ写眞添付ナキモノハ此際其所持旅券ニ小形写眞一葉ヲ添一貴民會ヨリ經テ當出張所ニ提出セシムル様御取計相成度此段及通知候也

在齋々哈爾日本領事館



大正七年五月

在浦潮

スレテス

日本帝國總領事館

日本文學家長藤崎喜能殿

許取財人

住所 安東縣五番區藤崎道公司

三吉香雄

山崎英丈

三十七年

右者今因安東縣... 許取財人... 藤崎喜能殿

在浦潮斯德日本總領事館

署長より別紙通り... 藤崎喜能殿... 許取財人

第一〇二一號

一金壹千圓

榎崎喜能

明治卅三年法律第三十號依ル救恤金付額

右告知ス

明治四十三年十月三十日

大藏大臣候爵桂太郎

大藏大臣印

移レ

大阪黒川製

5-1 1 5 8

0193

603

山口



本館
昭和
九月
十月

不
在
寺
徵
吉

在 領事館 第 三 號 申請者

申請額 額 二百六十圓

備考 大伴承高

査定額 全 東本寺 百三十三圓也

新 尾定 西園寺

（救恤審査會 去登査定額見附）

九月五日
申 成 高
田 尾 寺

本
（已號川紙）

外務省

5-1158



第三三號

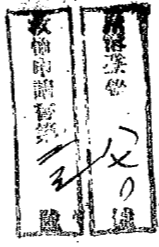
取調書

咸鏡北道鏡城郡格村 洞村星洞三七番地

申 成 萬

勅令第三百四十七號第三條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述ノ各項ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム



申請書記載ノ損害ノ総價額ヲ申請者ノ経歴資産及信用
ノ実情ニ照ラシ穩當ナリト思考セララルヤ
本人ノ資産及経歴ノ實情ニ照ラシ穩當ナリト思考セラレ

該申請者ト被害者トノ關係ハ申請書ニ記述セラレ
タル處ト相違ナキヤ

其法律第三十九條第五條規定ノ審査會ヲ査定ヲ爲
ス爲参考トナル事項



救恤申請書

書第 二 三 號

申請書

本籍地 威鏡北道鏡城郡松村面壽星洞三又奉地
現任所 同上



職業農 申成萬

明治十五年四月廿五日生

一 遭難場所 西伯利亞黑龍洲(ハバロフスク市農坪)

一 遭難年月日 大正九年九月二十九日

一 遭難前後事情
右所於于明治四十四年五月頃西伯利亞黑龍洲ハバロフスク市農坪ニ約十年前居住シ大正九年十月十日頃

黑龍洲以遭難撤去、為ノ右地、居住ニ難キ依リ道々
ニ日亦軍隊沿海州ニヨリス、ハ撤兵ノ際軍隊ト共ニ浦
以斯德逃難隨行ト其、右本籍地、故郷セリ

一 損害種類

炭屋、炭具、炭釜、鯉魚網、漁船。

一 程度 該炭、不動產、動産、全部、損失ス

一 償付 炭屋、以金、五拾圓

炭具、以金、貳百圓

炭釜、以金、五拾圓

鯉魚網、以金、六百五拾圓

120 尾記

刻





漢船六拾圓

一事由 避難故國為メ

其地方居留期間 自明治三十四年五月頃迄 至大正九年九月頃迄

一其他参考事項無シ

備考

證據先故國證明書添付

大正九年六月二十七日

鏡城部 格付向書等の三七番地

申 成 萬



外務大臣 殿



在ハバロフスク日本領事館

証書 八八九 証明書

一、原籍 朝鮮咸鏡北道鏡城郡格村面壽星洞
 二、現居 ハバロフスク農坪村
 三、職業 農業者
 四、姓名 申成萬、妻姜氏、子香老、女粉摘
 五、年 齡 明治十五年申成萬、昭和三十二年申成萬、大正十五年申成萬、大正十五年申成萬
 六、行 先 原籍地
 七、歸 籍 目的 避難帰國者
 右大正九年九月二十九日、四品河物約於布度ヲ携カ、
 出立地ヲハバロフスクニ歸リ、ハバロフスクニ在リテ証明ス
 大正九年九月二十七日 在ハバロフスク

9.10.2
新1259

在ハバロフスク
 不著申
 不動地
 賣掛

(已服用紙)

604

大正九年九月二十九日
 哈府 引揚

朝鮮總督府

在 縣 第二四號

申請額 金千五圓九拾円

副申請額 大任承認

査定額

大正九年九月二十九日

尾定、四割、五割、六割

(致他審査會主任査定意見書)

申請者 姜女 昌日 昌日

如件諸君ハハバロフスクニ在リテ、朝鮮咸鏡北道清津府、
 大正九年九月二十九日、四品河物約於布度ヲ携カ、
 出立地ヲハバロフスクニ歸リ、ハバロフスクニ在リテ証明ス

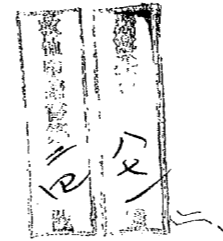
外務省

威鏡北 道鏡城郡 楮村 西村星岡七番地

姜 遇 昌

一、勅令第二百四十七號第二條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述ノ各項ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム



二、申請書記載ノ損害ノ総額額カ申請者ノ経歴資産及信用
ノ実情ニ照ラシ穩當ナリト思考セララルルヤ
本人ノ経歴及資産ノ実情ニ照シ穩當ナリト思考ス

三、該申請者ト被害者トノ關係ハ由請書ニ記述セラレ
シル處ト相違ナキヤ

四、其法律第百九十九條第五條規定ノ審査會カ査定ヲ爲
ス爲参考トナル事項

ナシ



救恤申請書第二四號

申請書

本籍地 咸鏡北道鏡城郡梧村面奇星

現住所 同上

職業 農 姜 溫 昌

明治二年九月十四日住

一遭難ノ場所 西伯利亞黑龍洲 (ハルビン停車場前)

一遭難年月日 大正九年九月二十九日

一遭難ノ前後事情

右住所ニ於テ明治四十四年二月頃西伯利亞黑龍洲ハル
口フス々停車場前ニ約十年間居住ノ處大正九年十月十日

頃黑龍洲ハ遣隊撤兵ノ為メ右地ニ居住ニ難キ

ニ依リ直ニ日本軍隊沿海洲ニヨリニ撤兵ノ際軍隊ト
共ニ浦坊斯德迄避難隨行ニ其後本籍地ニ故郷セリ

一損害ノ種類

家屋 家具 家畜

一程度 該處ニ不動産動産ヲ全部投入セリ

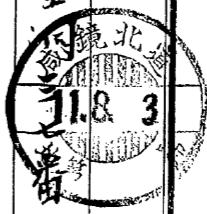
一價格 家屋代金 九百四十元

家具 四百元

家畜 貳百五十元

一事由 避難故國ノ為メ

如左



一其、地方居留期間 自明治四十四年二月
一其、他参考事項 無
備考

證據書類ハ故國ノ際咸北清洋警察署ニ於テ
大正九年十月三日ニ領置ス

大正十年六月廿七日

鏡坂部 楢村面 奇星洞

姜 暹 昌

外務大臣 殿



605

海難



大正八年三月
引揚
引揚

在吉
徵吉
不著中
買掛

朝鮮總督府

在 領事館 第二五號

申請者 岡本 田力吉
精信 田力吉

(救恤審査會主査査定意見書)

支印 (已號用紙)

申請額 五千円

備考 大伴 承 昭

査定額

審査ノ結果救恤額
認可キハ無シ

金 五 千 円

任意引上、方別、内若、不取、又、浦、遊、了、輸、送、も、有、
物、又、二、送、送、ス、ト、怪、シ

外務省

5-1158

準二五第

取調書

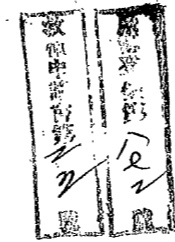


咸鏡北道鏡城郡羅南面美吉所九番地

岡本勇吉

一、勅令第二百四十七號第六條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述ノ各項ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム



二、申請書記載ノ損害ノ総價額カ申請者ノ経歴資産及信用
ノ実情ニ照ラシ穩當ナリト思考セラルルヤ
本人ノ経歴及資産ノ実情ニ照シ穩當ナルモノト思考セラル

三、該申請者ト被害者トノ関係ハ申請書ニ記述セラレ
タル處ト相違ナキヤ

ナレ

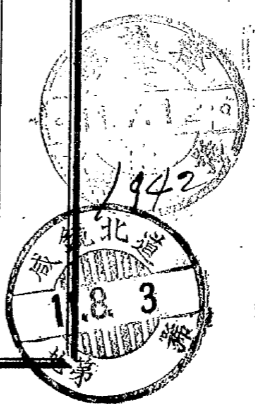
四、其法律第三十九條第五條規定ノ審査會ヲ査定ヲ爲
ス爲参考トナル事項

ナレ

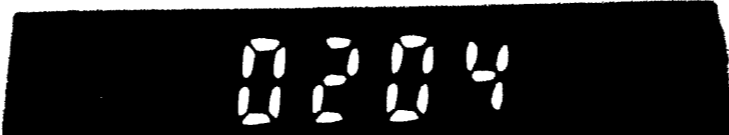


救恤申請書第二九號

申請書



<p>一 原籍和歌山縣日高郡稻原村大字山口七百八十番地 五番地</p>	<p>住所 威鏡北道鏡城郡羅南面美吉町九番地 商業 岡本勇一</p>	<p>二 露領ブラゴエシチエンスクツ引揚々ポチカレヨに於 シ遭難 明治廿四年五月廿四日</p>	<p>三 大正八年三月四日ブラゴエシチエンスクツ引揚々全 日午後七時頃、ポチカレヨ駅、着令地、於テ運搬 激湍、為シ包圍セラレ貨車中、在リテ恐々トシテ全</p>	<p>月十二日迄貨車中、生治ヲナレ居レリ</p>	<p>四 大正七年十月十六日商業、為シ露領浦塩斯德 ト上陸大正八年二月日詳ブラゴエシチエンスクツ着 商業、從事中突然ユワノフカニカ面ヨリ過激湍 軍接近シ来リブラゴエシチエンスクツハ危険ヲ リ當時在留民ハ各方面、引揚々我等ハ大正八年 三月四日令地引揚々全日午後七時頃、ポチカレ ヨ駅、着令地ヨリ列車、復々帰國スヘキ處ガビ タイヤ方面、戦斗ニシテ鐵道線及橋梁破壊 レ高分復旧ノ見込ナシ情報、接シ三月十二日迄令地、於 テ貨車中、居リシ復々四月十二日突然湍方面危険</p>
---	--	---	---	--------------------------	--

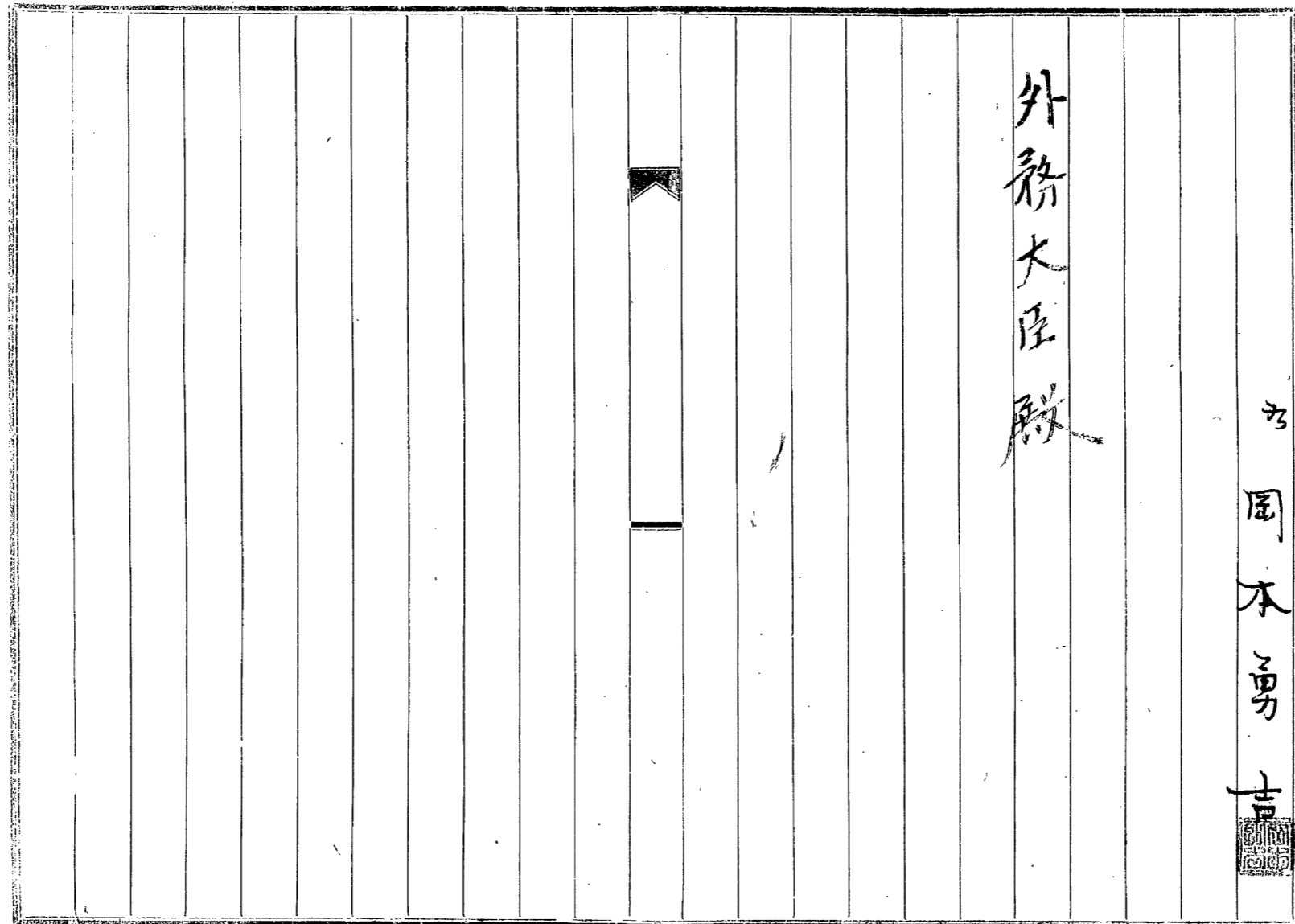


七年十月
仕入

其後
10

<p>状態に陥り兵站部より軍中在留民に調査を命じ今日兵站部と收容せしむる十四十五日に戦斗に於て義勇軍トシテ参加其後数日間ホケカレヨ守備軍ノ放棄ヲ傳ハシ居レリ</p>	<p>五 大正七年十月十六日浦塩斯徳に上陸し大反其他各地ヨリ約五千圓ノ食料品雜貨ヲ仕入ラシ今八年二月日不詳ブラゴエシナエンスクニ着今年三月四日所速ノ如キ危難遭引揚ニ除商品其他ノ一部ノ貨車積入レタル中紛失盜難ノ罹ラシテ浦塩斯徳迄運ビタル物品ハ腐敗汚損等ニシテ世價物トナリ今年四月十二日浦塩斯徳</p>	<p>引揚タル時ハ全々着ニシ着ニ此トシテ被クタル損害見積價格五千圓トス</p>	<p>六 大正七年十月十六日浦塩斯徳に上陸今八年二月日不詳ブラゴエシエンスクニ到今年三月四日各地ヨリ揚々タル</p>	<p>其他参考事項</p>	<p>大正八年三月十四日十五日ホケカレヨノ戦斗に隆義勇軍ニ参加シタル為メ時ノ上司ヨリホケカレヨに在留民會長宛感謝状ヲ賜フタル通知ニ接ス</p>	<p>右申請修也</p>	<p>大正拾壹年七月 日</p>
--	---	---	--	---------------	---	--------------	------------------





5-1 158

0206

606



改訂 15

去 (已號用紙)

救恤審査會主査査定意見書

申請者 木幡 誠

陸軍用達

朝鮮總督府

在 鎮 第 二 六 號

申請額 参千六百五拾圓

備考

副申請 大伴 承 鶴

査定額

金百圓

予中推計 照答元三全生 数量全額 考虚 持

過大 担 務 也

外 務 省

5-1158



取調書

咸鏡北道鏡城郡羅南 西羅南金九番地

水橋 誠

一、勅令第二百四十七號第六條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム

羅南金九番地
西羅南金九番地
咸鏡北道鏡城郡羅南

二、申請書記載ノ損害ノ総價額カ申請者ノ経歴資産及信用
ノ實情ニ照ラシ穩當ナリト思考セララルルヤ

本人ノ経歴及資産ノ實情ニ照シ穩當ナルモノト思考セラル

三、該申請者ト被害者トノ關係ハ申請書ニ記述セラレ

タル處ト相違ナキヤ

ナシ

四、其法律第三十九號第五條規定ノ審査會ヲ查定ラ爲
ス爲参考トナル事項

ナシ

救恤申請書 二六

申請書

木幡 誠

明治三十九年八月廿三日

職業陸軍倭人

現任北朝鮮羅美所八指九番地

引揚地東清線ハイヤル

引揚期ハ一九一九年八月廿七日

職業牧馬業陸軍用速商草業簡新製造業

一在滿期間ハ一九一九年五月三日至一九一九年八月廿七日

損害明細書

一全養千六百五拾貳圓也

内訳

種類	数量	價格	合計	備考
禮類	大五	拾貳圓	拾貳圓	由
鴨	小五	拾貳圓	拾貳圓	由
雞	大二〇〇	拾貳圓	拾貳圓	由
山羊	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
馬車	一輛	拾貳圓	拾貳圓	由
馬	一匹	拾貳圓	拾貳圓	由
牛	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
猪	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
羊	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
狗	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
猫	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
魚	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
鳥	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
虫	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
植物	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
礦物	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
其他	一頭	拾貳圓	拾貳圓	由
合計			拾貳圓	

古山洋外法區具引揚先二工リシト持第スル手續致置テモ此出

不承 携り出し 8/10



茶肉際貨車部言書ハ中ハノ言ハシテ全部賣却為シ領事館
 美山々々損害額増進アリ改正
 一引揚地ウズリ線ウズリ一駅
 一引揚地大正九年七月十七日
 一在尚期間大正九年七月十七日

損害明細書

内訳

種別	数量	價格	合計	備考
家賃	才司	五拾圓	五拾圓	三月間の家賃
造作		八拾圓	八拾圓	製造下使造作外物ノ除去費
薪	一ト	五拾圓	五拾圓	丹波ノ薪又ハ使費者ノ薪
小麦粉	五拾袋	五拾圓	五拾圓	外物ノ除去費
砂糖	五俵	七拾圓	七拾圓	右同
油	五俵	七拾圓	七拾圓	右同

不承
 1/20
 不承
 1/20
 不承
 1/20
 不承
 1/20

東清線ノ絶對引揚下年々ノ下降想ハシテ將來ノ人々ノ事業ノ廣大ナル
 北滿沙地方郵索ヲ利用シ以テ有益見込ラレタリ大正七年八月ノ牧
 其為甚重ニ苦ムル資本金及備保多ク馬車山官買入事自
 軍隊地方人ノ苛物ノ運搬大井ノ大馬車之結果漸ニ多
 基礎ヲ築キタル地實前大正九年七月ノ領事館ノ損傷中下
 命格ノ修繕費及夏期睡眠費ノ掛金ニ意外ノ損失利
 航運通過ノ軍隊用運送ノ關係上隊上右時ノ格
 命ハミテ最終之日迄茶肉同月三ノ地ニエリ
 着目ノ光カ修人等ノ爲ニ供入ヤトス修費ノ出格ナル事
 帯在世上ノ凡詳ニ依リ運送ノスリ線ノ修引揚等

ナキ模様有車更イマレ以第ハ安金トノ七言ク信ジ十月ニテ
 北ウスリ線ウスリ一軒ハ業止セ七任候ナリ三十日程世業
 在漸遷重人ニ未借受修車庫前令部建築諸所
 第四位階隊及三大隊階隊其車庫製造納入也
 約志自三ノ外揚命令下リ始月廿七ヨリ其同月
 三十日南漸ハ過早ニ結氷時期故但家非常ニ苦心
 ンタニ借家ヲ様何ノ土月早況南漸北方ニエトノ一集
 先元同外揚人等々其苦見セ立タレ揚ハ其苦ノイタ
 行書画シタニ建築スルニ結氷時期如何トモ其能ワズ
 翌年五月ハ宜シク休業庫倉致自今所存高土若園
 他多ク園借受都合ナレ其園ニ建築イケン青土
 多ク其業不利相移月ニ多ク其久ノ官率備造作金其
 入用ニ此等時大連會議ノ結果都合ニ依リ之ノ外揚
 中親ヤ状態ニ也若入ル事ニ出来タレ三月純金
 七百五拾圓宛月賦返還都合金若園押止破金四
 百圓之負債ニテ若園ノ建築物全部提供ン令
 ンコトワニ此日外揚ハ自今建築シテ若ク自年十月
 十五日南漸迄業ハ先ハ不安定ノ霞飲ニ目的立ルコト
 有路費借出又十月十五ヨリ其羅第ハ引揚々南漸東清線
 三都合ヒケ中開自ラ馬車運搬之怒方勤ヤ牧草及若
 土賣ニ六日ニ其園主結果ハ一引揚々以前勤金三
 圓現金及レキ其園都合六千五百圓令ヤ全部其勤
 ンコトノ使イ事也品早然カ力其意也其時期ニ老後生活
 計畫ニ苦心イケン在在様宜印津救助ラン事懇氣致
 治年十一
 右之通ノ相違ニ言之外

右申請候也

大正十年六月廿七日

木村

義

外務大臣 殿



607

出



九年八月
満州里

不
再
徵
吉

朝野揚子

在 領事館 第二七號

申請額 壹萬六千五百円

備考

副申請 穩當ナルモノニ非ラズト見考ス

査定額 貳百五十円也

前申請額 家名ニ別リテ

（救恤審査會主査査定意見書）

申請者 草子村龍藏

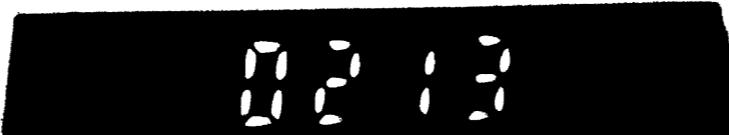
満州里在留士可野月

飲食店

外務省

（已號用紙）

5-1158



取調書

成鏡北 道鏡城 郡 柵 村 西獨洞 四 番地 西川方

草野 龍 藏

一、勅令第二百四十七號第六條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述ハ各項ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム

債権者 債権
債権者 債権
債権者 債権

申請書記載ノ損害ノ総額カ申請者ノ経歴資産及信用
ノ実情ニ照ラシ稔當ナリト思考セラルルヤ

中人ノ経歴資産及信用ノ実情ニ照シ稔當ナルモノト非ラスト
思考ス

三、該申請者ト被害者トノ関係ハ申請書ニ記述セラレ
タル處ト相違ナキヤ

四、其法律第三十九條第五條規定ノ審査會ヲ査定ヲ爲
ス爲参考トナル事項

救恤申請書日第 二七 號

露國政變及西伯利亞事變ノ爲メ被害救恤申請書

原籍 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地
 現住所 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地
 氏名 草村龍藏
 明治三十二年六月八日生

申請者ノ引揚又ハ遭難ノ爲メ損害ヲ被リタル者ニ非ラザルトキハ被害者ノ氏名、年齢、職業本籍及現住地並ニ申請者ト被害者トノ關係

引揚又ハ遭難場所

引揚又ハ遭難ノ年月日

引揚又ハ遭難

前後ノ事情

損害ノ種類程度

價格及事由

引揚又ハ遭難ノ前被害者ガ其地方ニアリタル期間

其他參考トナル可キ事項

	<p>被害者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>
	<p>佐々木克巳 家 五ヶ月 家 五ヶ月</p>
	<p>申請者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>
	<p>損害ノ種類程度 申請者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>
	<p>價格及事由 申請者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>
	<p>引揚又ハ遭難 申請者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>
	<p>引揚又ハ遭難ノ年月日 申請者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>
	<p>引揚又ハ遭難場所 申請者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>
	<p>申請者ノ引揚又ハ遭難ノ爲メ損害ヲ被リタル者ニ非ラザルトキハ被害者ノ氏名、年齢、職業本籍及現住地並ニ申請者ト被害者トノ關係 申請者ノ明証は、明治三十二年五月ヨリ、正八年八月七リ、 長崎縣南高井郡千石村六百九拾八番地、 朝鮮咸鏡北道鏡城郡梧村洞四十番地、 住居セリ</p>

權利喪失
 已ノ遺言ニ依リ
 依リテ
 1/2

右之通被害相蒙リ候間御救恤被成下度奉懇願候也

大正十一年七月二十一日

氏名 草村龍藏

外務大臣伯爵 内田康哉 殿

副申書



露國邊境及び西伯利亞事変ノ際ニシテ
救恤申請書別紙ノ通リ申請仕立タル申
請人ノ行高ノ業ト有之ルニシテ一定
ノ例所ニ任職セリトシテ今後莫ク十
請ノ至旨ニテ採察相成救恤金以下
附ノ際申請書所書ノ現任所ニ在
ル節ニ申請人ノ如籍地長崎縣幸高
東部今之石村ニ見出ル善地草村ニ
方ニ申送付方以テ相成候以テ副
申仕立也

大正七年七月二日

任所朝鮮咸鏡北道鏡城郡控打浦
獨淵洞口松成善地

草村龍藏

咸鏡北道廳御申



609



八年三月
五十五番
難

在
不
動
寺
賣
掛

朝鮮總督府

在

領事館 第二九號

申請額

壹萬零千八百圓

備考

新撰書物

副申請額

大佐承認

査定額

全書
三冊
四月

武市川物... 佐倉...

外務省

(被債審査會主編査定意見書)

武市川物... 佐倉...

申請書

片岡素

酒

去
已
號
用
紙

威鏡北道清津郡寿町 西拾七番地

片岡 兼一

一、勅令第二百四十七號第六條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述ノ各項ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム

シラ

二、申請書記載ノ損害ノ総價額カ申請者ノ経歴資産及信用
ノ実情ニ照ラシテ適當ナリト思考セララルルヤ

本人ノ経歴資産及信用ニ照ラシテ適當ナルモノト思考

セラル

三、該申請者ト被害者トノ關係ハ申請書ニ記述セラレ

タル處ト相違ナキヤ

ナレ

四、其法律第三十九條第五條規定ノ審査會カ査定ヲ爲
ス爲参考トナル事項

感謝状写一通



西比利亞事變救恤令施行
請求書

11.27
11.27

一、申請者ノ姓名、年齢、職業、生籍及現住地
生籍 靜岡縣富士郡今泉村今泉
四ノ七ノ六番地

現住地 函館市通清津町番町五
番地雜貨店

片岡 素一

明治三十七年七月廿四日

二、被_レ害者 申請者ノ令子

三、引揚又ハ遭難ノ場所

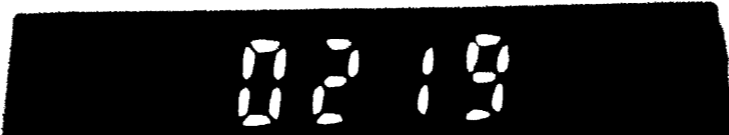
ブラゴエシチエルクス引揚途中「ボクレーウ」
ニ於テ遭難

四、引揚又ハ遭難ノ年月日

右ノ八年三月三日引揚開始、四月十四日
五ノ西日遭難

五、引揚又ハ遭難ノ前後ノ事情

右ノ七年十二月十五日、露艦「ブラゴエシチエ
ルクス」ニ於テ遭難、船員ノ生計ニ於テ、聖
大正八年二月、次子「エワノカ」方面ヨリ



歴

思淑派軍接追し来り己こ「ブラゴロレシケレシス」
 危険状態に陥り同地在留邦人の急引
 揚ケテ可ク運命、迫り所有財を悉く
 高名類々之レヲ投棄せしむる此ノ場合其
 手ノ有ルハキテナリ不得已容積少量止
 比較的豊饒ノ物品ノミヲ取纏メ今年之
 月ニテ今知ラズ退キ翌四日午後「ボチカレ
 ウ」驛着翌日ノ列車ニテ浦潮斯徳へ帰
 ル途途中「ザビタイ」方面ノ戦闘に於テ鉄
 道線路及橋梁ヲ破壊サレ当分工事復
 活ノ見込ナシトノ情報に依リ三月廿二日迄
 各地貨車内ニ居りしニ今テ定代人各地
 ハ危険に瀕シ兵站部ヲ車中ニ仮住ノ
 在留全胞ノ調査ヲ行シ全部兵站部
 収容せし其翌十三、十五ノ両日ニ互ル各地
 ノ戦闘ハ義勇軍トシテ参加シ其後數
 日間ボチカレウ迄守備軍ノ処事其他雜
 役ニ従事シタルガ此ノ戦闘中、於テ所持品
 金銀鈔失又ハ途難、罹リ着ノニ着ノ
 べく僅カニ身ヲ以テ免カレ今年四月十三日

清国八幡木文書館蔵



東洋書局刊行 南洋新徳文

達 元コトヲ得タリヤ

六、増字ノ種類、程度、価格及事由、

前項ノ次第ニテ高品及計量器類家

具什器類ハ全部別紙被書者補

書ノ通リ亡失ノ際ハ先ヨリ被書額ハ全

者万金ノ内ヨリ取付金ニ充テ

七、引揚文ハ遺難ノ前被書者其地方

ニ在リ期間

大正七年十一月十五日ヨリ翌八年四月十

三日迄四ヶ月間

八、其他参考事項

別紙ニ於テ被書本ノ通リ

右ノ通リノ事情ニ依リ申取恒賜念

御下所被成申度此ニ祈示付是也

也

大正七年七月二十日

片岡素一

外務大臣内田康哉殿



100

品目		数量	単価	少計	備考
兵ナリヤス	一二〇	一着四	三、一五〇	〇〇	本館より三冊 ナリヤス ナリヤス
錦ナリヤス	四六〇	一ニ	五、七五〇	〇〇	区直区以来在 海七五西回ナリヤス
夕オフル	一六四	一打	九八〇	〇〇	一打ノ舞 ナリヤス
ワイシヤツ	八	七二	五七七	〇〇	ナリヤス
ハカチーフ	二七	九六	二五九	二〇〇	
カタレ糸	五五〇	一	七九二	〇〇	
響	二	二二	五二八	〇〇	
陽実子糸	二〇	四八	九六〇	〇〇	
計着雑品	西交		八〇〇	〇〇	
今計			三、八〇〇	二四〇	
右之通り相違なき也					
片岡 葉一					



第三〇號 取調書

成鏡北道鍾城郡上三峯面 番地

吉益啓

一、勅令第二百四十七號第二條各項ノ事項ニ関スル申請記述ハ根
據ヲ有スルモノト認メラルルヤ

申請記述ハ相當根據ヲ有スルモノト認ム

定

申請書記載ノ損害ノ総價額カ申請者ノ経歴資産及信用
ノ実情ニ照ラシ穩當ナリト思考セラルルヤ
本人ノ経歴資産及信用ノ実情ニ照シ穩當ナルモノト

思考セラル

三、該申請者ト被害者トノ關係ハ申請書ニ記述セラレ
タル處ト相違ナキヤ

被害者安達トクハ申請人ノ因縁ノ書ニシテ該損害ノ実状
ハ吉益啓ヨリ実情ニ照シタルモノナリ

四、其法律第三十九條第五條規定ノ審査會ヲ査定ニ爲
ス爲参考トナル事項

再守備隊本部証書一葉

正救恤申請書 三〇

故恤金申請書

原籍地 鹿島郡大島村天樹林二六
現金所 朝鮮咸鏡北道鍾城郡上之峰

吉田運給林申金付
吉田 啓

明治三十三年二月廿五日生

被定者

原籍地 愛知縣海部郡八南村字元利月八四
現金所 朝鮮咸鏡北道鍾城郡上之峰

安達 トシ

明治三十三年二月廿五日生

申請者 内縁ノ妻

引揚場所 慶應義塾海部町アノキ也一ノアノキ

引揚年月日 大正九年二月廿日

引揚前後事情 過激派市中へ入る危險ノ虞レテ軍隊保

護ノ下ニハツクマシテ引揚ノ輸送ノ都合

ニ依リ三月廿五日國地博覽會ニ入リ三月廿七日

浦臼斯世ノ修シテ三月廿七日長崎ニ着

三月廿日教三十八日

引揚ノ種類

前項ノ日教ノ對シテ諸費用

十九 全額

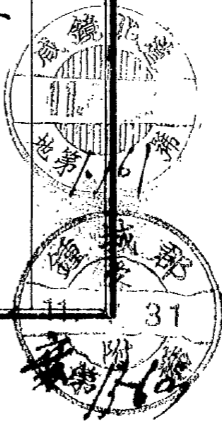
吉田 啓

蓋印



別

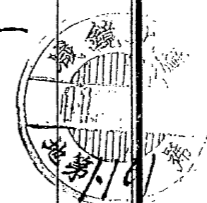
<p>救恤金部下附申請書</p> <p>原籍地鹿兒島縣大島郡天城村ニテ</p> <p>現在所 朝鮮咸鏡北道雄城郡上三峰ノ</p> <p>主田金給付申付書</p> <p>左 査 啓</p> <p>明治三十一年二月廿五日</p>	<p>引揚揚所 露西海海海ニキ</p> <p>引揚年月 大正九年九月</p> <p>引揚前後ノ事情 大正九年八月初旬 俄國軍隊撤退決定 同村</p> <p>ニハロラスノ 領事館ニテノ 令下 係</p> <p>損家ノ種類</p> <p>燃料 薪 火急ノ場 令給 運力ノ不足ノ為</p> <p>此米トシテ 米朱 百六十市度ノ 食料ノ 不足ニシテ</p> <p>給運シタル 為メ 代金及口 給運費用ノ 差引 控</p> <p>金</p> <p>証金 申請書ノ 添付 書類 日 本 支 店 支 店 支 店</p> <p>シ、英 給 付 金 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店</p> <p>軍 隊 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店</p> <p>令 下 給 運 金 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店</p> <p>代 金 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店</p> <p>金 給 付 金 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店</p> <p>同 地 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店 支 店</p>
--	--



5-1158



<p> 救恤金由下附申請書 原籍地 鹿島郡大島村天城二六一 現金所 朝野成鏡北道 鐘城 殿上三崎 友田運輪林市舎住 去 益 啓 昭和十三年二月廿五日生 </p>	<p> 引揚場 露玉里新海 アレキ也一ツスウキ 引揚年月日 大正九年二月廿五 引揚前後ノ事情 大正九年二月廿五日 我が軍撤退退激隊軍ノ入 事ト決定ニ日升ル命々 申中ノ入ト同知ニ示 威運部ノ七倉後方ニ依リ軍隊保護 ノ下ニハアリスラケ 厄事ニ引揚ル 損失ノ程 數 アレキ也引揚後光ケハ口ツスニ 産物中其 レノ更ニ厄事ニ 傷象 管業ノ人ニテノ日數 四千日ニ對シ 諸受用 </p>	<p> 不 融 金 款 引揚者 其地ノ 専ラ 期間 露銀 四二 去 融 銀 五二 整理方法 當時同他守備隊中 部治書一 運 添付 右 申 信 及 取 付 大正十三年七月廿五 右 去 益 啓 </p>
---	--	---



								▲									

致
使
審
査
官
長
殿

印

5-1158



證明書
 吉益善吉
 右に記す中、南陽、軍需品、納
 殊務整理、爲、撤去、運送
 可也、任、置、又、其、之、後、任、兼、許
 右、任、用、也、事、の、由、也、
 大正九年一月廿七日
 吉益善吉



5-1158



故郷全所下附申請書

原籍地鹿島郡高野天城村二六一

現住所 朝鮮咸鏡北道鍾城府上三崎

大田區府前町分社

吉益 廣

明治十三年二月廿五日

引揚場 露飲里龍河アキセーラス方

引揚年月 大正九年二月廿五日

引揚前後事情 大正九年二月三日遼瀋軍司令部、八日奉命、

當地於遼瀋司令部に在留中一被(市況不安等)

對し保護ノ便上りノ立任者ハ旭方會(旭方會)

ハ當時ニ於テ甲種兵トシテニ被命シテ三月ノ間、甲種兵トシテ

被命シテ、甲種兵トシテ、甲種兵トシテ、甲種兵トシテ

之難シ軍隊ノ保護ノ受タシト命令マシタ

全部其準備、而初カシ、庚午二月十日、甲種兵

分隊ヲ當テ、三月、甲種兵分隊、甲種兵分隊、甲種兵

二期定ノ時、甲種兵分隊、甲種兵分隊、甲種兵分隊

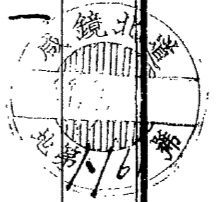
初大尉、甲種兵分隊、甲種兵分隊、甲種兵分隊

、甲種兵分隊、甲種兵分隊、甲種兵分隊

引揚カシ、極秘裏ニ準備シ、甲種兵分隊、甲種兵分隊

解カシ、甲種兵分隊、甲種兵分隊、甲種兵分隊

告分隊ノ任ヲ棄テ、甲種兵分隊、甲種兵分隊、甲種兵分隊



5-1 158

聖三十五丁 輸送開帳

申傍者、當は前記旭島會(池田後) (終實中)

長留氏合ノ役夫一人ナリシメ、列車ニ於テ、輸

送力不足等、其前ヨリ、運送ノ困難ニ付、トモ

後、陽物等、運送力不足トシテ、十九日、雨

多シ、重費、因縁ナリ、買手も相方アリ、此

邊、海軍ノ入付トモ、入場式、右トシ、中

示、海軍勅、ナレ、日本軍ヲ招、時、武裝ヲ解

除、右トシ、深言、故、重費、由、海軍、為、致、

セ、トモ、死、散、リ、死、散、シ、ト、早、美、影、シ、中

、引、過、シ、敵、艦、心、微、登、る、一、方、日、本、人、物、

ノ、買、受、ル、シ、時、向、前、物、ル、ク、没、収、ス、ト、言、

、シ、ト、シ、ト、何、令、便、ノ、如、旨、物、ノ、多、携、ル、

、外、方、ノ、運、送、力、之、一、止、ム、事、ト、言、

、備、考、(註) 船、長、留、印、二、貨、一、手、通、共、シ、テ、

、(未、考、者、類、係、也)

、投、家、種、類、(一) 右、名、遺、棄、及、重、費、ト、係、

、價、格、(未、考、者、類、係、也)

、(二) 馬、足、馬、具、馬、具、種、馬、種、家、具、送、作

、價、格、(未、考、者、類、係、也)

、(未、考、者、類、係、也)

義印



浦月、七年
他田徳永
依り下記通
川、定即
西分、相
多、
旭、
二、分

百十三四九十未ヲ認

陸軍省

引揚前其地方等之期間 拾年 海陸四年

陸軍省陸軍部陸軍監理局 陸軍省陸軍部陸軍監理局

陸軍省陸軍部陸軍監理局

陸軍省陸軍部陸軍監理局

右申請及多知

右の申請は七月十日

右 吉 呈 啓

陸軍省審査官

殿

印

5-1158

0235

証憑
別

<p>救恤金部下附申借書</p> <p>原籍地 鹿島縣高郡天城村二六一</p> <p>現住所 朝鮮咸鏡北道鍾城段上三峰</p> <p>支田運送路珠可會社</p> <p>吉田 吉魚 改訂</p> <p>明治十三年一月五日</p>	
<p>引揚場所 露國沿海所のやがた</p> <p>引揚年月 日大正九年九月</p> <p>引揚前後 事情大正九年月初日林隊隊撤送下決定同分ハヨクハ 駐軍領事館より内地民舎宛電報より住居疎留力モ屋文字キ標附記シテハ生</p>	<p>命 危險ナル慮ハリ 救引揚ハ決ス</p>
<p>積算種類 馬程乾草</p> <p>約五千布度</p> <p>借付 五百元</p> <p>果不也</p>	<p>別紙</p> <p>合小 運手前於九月四日入領</p>
<p>引揚前其地等ノ在リ期間 五ヶ月</p> <p>證據 官帖 當分六右那隊所主計小林某上約之軍隊</p> <p>他人為ノ替申共即領之州有ニ乾燥ノ上積</p> <p>二五十二ノ證據書類ハ部運添外ニ送付</p> <p>右申請 及び此也</p>	<p>證明</p>

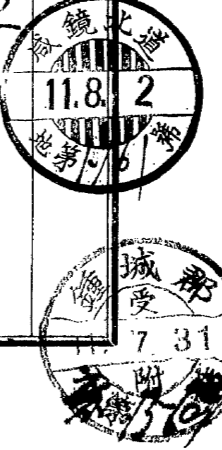


大正十年七月廿七日
右吉益啓
故細審査令長 殿

封
印

5-1158





秋徳金庫下隊申請書

原籍地 鹿兒島縣高野郡天城村二丁目一
現在地 朝鮮咸鏡北道鍾城府上三坪

大南運給務所 吉之五 陸

昭和十三年二月廿九日

引揚場所 露國江邊海

引揚年月日 大正九年九月 日

引揚前後事情 大正九年八月廿日秋が軍隊撤退以来 日本側
に在る公同事務を執行するに因りて其の留守に在りて
電報の係り自ら責任を負ひ留守に在りて
責務を司るも其の事務が進行せずと云ふ
一危険の能かれり此の事務を一人に在り
爲す一般引揚の如し

引揚の程度
山形に在りて引揚後原市浦の事務は
一停頓を來りて致し三十日以上の事務費用
金款 未申付也
引揚が其の地方の事務期間 五ヶ月
證據方法 其の當の地を駐劄し領事館に在りて
取申付及為也

引

單
一金粟刈百八十の平 現銀
一金以於八平任百五十支 豆油壇 現銀
一金以於八平 示函
共銀參百八拾五の平 任百五十支
但于草約以件布代金
右于草賣渡代金受取候也
九月
十日 吳永春
外九人 具



奉玉票我佰五拾千

支白銀拾合

支五兩九金半合

支現銀拾金合

支現銀九拾五兩

支現銀八拾三兩

正大率帶拾担二清

傳恒廣

外六人

